

湖北広域行政事務センター

新一般廃棄物処理施設整備運営事業

基本設計（設計・建設編 2）

4. 新施設の主な特徴

1. 最新技術導入による環境保全

最新の技術を導入し、周辺はもとより、地域全体の環境保全に十分配慮した施設。

2. 資源の有効利用による環境負荷の低減

熱回収施設はバイオガス化施設を併設することにより、生ごみ等を発酵させ、メタンガスとしてより効率よくエネルギーを回収し、最大限の発電を得ることで、CO₂の大幅な削減に繋げる環境負荷の低減に向けた施設。

3. 次世代につながる利活用

熱回収施設から得られた電力は、各施設及び斎場へ供給し使用。電力の余剰分は、売電により得られる収益を運営費に充当、他の公共施設等へ供給、非常時の電力供給など、次の世代へつなげる利活用を考慮した施設。

4. 有効な財政支援

国が推進する廃棄物系バイオマスの利活用（バイオガス化施設の併設）を行うことで、施設整備費に係る環境省の循環型社会形成推進交付金において優遇措置（交付率1/2）が適用され、より有効な財政支援を受けることが可能。

5. 施設間で連携した総合処理

一極集中（同一敷地内）による整備において、一般廃棄物（ごみ、し尿等）を施設間で連携した総合的な処理システムの構築により、効率的な施設運営を図りコスト削減に努める。

5. 業務範囲(1)

■事業者の業務範囲

- (1) 事業実施に必要な施設の設計・施工、管理・運営
- (2) 現焼却施設（クリスタルプラザ）の解体



▶ 主な業務内容

- ・熱回収施設、リサイクル施設、汚泥再生処理センター、管理棟等の設計・施工、施工監理
- ・全ての施設（管理棟を除く）の運営、運転及び維持管理
- ・可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、し尿等、資源ごみの受付・計量、受入及び処理
- ・汚泥再生処理センターで発生するし渣・助燃剤の熱回収施設（焼却施設）での焼却
- ・光熱水費の負担
- ・本施設から発生する主灰・飛灰、鉄・アルミ等及びストックヤードの資源ごみの保管、計量
- ・リサイクル施設で発生する不燃物の保管、積込、計量及び最終処分場への運搬
- ・熱回収施設で得られた電力は、各施設、新斎場への供給及び電力供給を含めた斎場事業者との連絡調整、電力事業者への売電
- ・公害防止のための環境測定・監視及び情報管理
- ・施設の防火・防災管理、清掃及び植栽、見学者対応の補助
- ・設計・建設、運営に係る資金調達